

同じじきをもおもふべし、

〔鹽尻十五〕一繼體天皇、日本年號を善記と云、是始と云々書に繼體帝即位十五年を善紀元年とす、以下略之、二十餘之年號あり、正史に見へず、夫我國年號の始は、孝德帝元年を大化と號し給ひ、其六年を白雉と改む、白鳳は天武即位の元年壬申より乙酉迄十四年、丙戌は朱雀の元年也、持統は年號を立給はず、文武の即位五年辛丑、大寶と號せられし後、綿々として改元有りといふ、有難き事共也、

〔春湊浪話上〕往古年號

年號は、孝德帝御時、大化白雉の號を置れたる、日本紀に見えし始なり、ちかるに伊豫國の湯碑文を上宮太子の建給ふに、法興六年十月歲次丙辰とあるさせ給ふ、此碑は今廢れたれど、其文は伊豫風土記を引て釋日本紀にみえたれば、法興の年號有し事明也、考るに丙辰の年は、推古天皇の四年なり、此法興の號、源平盛衰記にもみえたり、又欽明天皇の御時、金光の年號、推古天皇の御時、端政の年號等も、平家物語にみえたり、猶後世の書なれども、東山殿の同朋相阿彌が著す君臺觀にも、聖德六年戊巳とあるす、又江州あぶら火の明神の社記にも、證明四年と書たりといふにや、海東諸國記に、敏達天皇元年壬辰に金光を用ひ、崇峻天皇二年己酉に端政を用ひ、舒明天皇元年己丑に聖德を用られしといふとみえたり、法興と證明といふ號は其書にみえず、是等の年號ふるく記し置き、異國にても書たれば、往古大化白雉より先に年號有し成べし、聖德太子と申奉る事、御諱名なりとも、御謚號なりとも記せしものあれども、其世の年の名をとりて稱し奉るにやあるべき、其後白鳳と朱雀といふ年號、ふるき文に多く見え、水鏡には、天武天皇の大友皇子を亡し給ふ年の年號朱雀元年にて、明年白鳳と改元有しなり、神皇正統記には、天智の御時白鳳、天武御代に朱雀朱鳥などいふ號有しと見え、又古語拾遺には、難波豊前の朝白鳳四年といふ事も有、是は孝德天皇の朝の御事なり、此二つの年號、諸記にして所如此に齟齬ある上に、正史に見へ